

# NILES

4

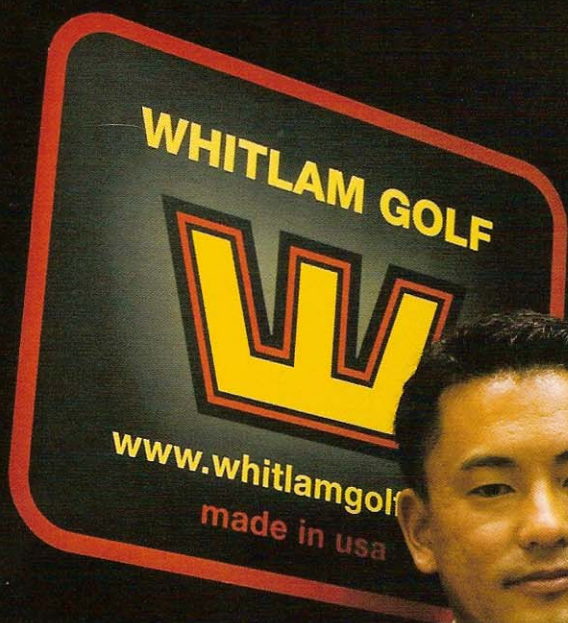
Festival du Film Français au JAPON 2006  
不滅なり ルルーシュ

# 若き才能の運命的な出会いが 日本ゴルフ界に新風を吹き込む

**maruman**

マイスターの意匠が光る  
秀逸のバター

Photo TONY Text Nile's NILE



ジャパンゴルフフェア2006にて、お披露目となったウィットラム・ゴルフ。右からウィットラム・ゴルフを率いるデビット・ウィットラム氏とマルマンの若き副社長、前田裕之氏

(写真右から) 待望の日本上陸を果たしたウィットラム・ゴルフのバター。右から「DEVON」、「MH2」、「HUMMER」の3本。マルマン副社長の前田裕之氏。若き経営者の大胆な行動力で、マルマンへ新風を吹き込む。ジャパンゴルフフェアにて、ファンサービスを行うデビット・ウィットラム氏。日本初お目見えのウィットラムバターに触れようと多くのファンが詰め掛けた



トラム・ゴルフを展開するデビット・ウィットラム氏と日本のゴルフメーカー、マルマンの副社長前田裕之氏である。実はこの出会い、日本のゴルフ愛好家たちにとっては、待望のといっても過言ではない重要な出来事となるのであった。

ウィットラム・ゴルフが取り扱うのは、デビット氏自身が企画、デザインから製作までを手がけるハンドクラフトのバターで、アメリカでは芸術品とまで評されている逸品である。ツアープロに支給するバターと同じ仕上げ、そして精度を、一般のゴルフアーにも同じように提供する。この一貫したスタイルに、頑ななまでに真摯な物づくりのポリシーが具現化されている。一方のマルマンは、言わずと知れた日本を代表するゴルフメーカーで、質実剛健を誇る技術力、開発力に定評があり、長年に渡ってゴルフ愛好家たちとの間に強固な信頼関係を築いている。

彼らの出会いが、実際に実を結ぶのに、それほど時間は必要なかった。ハンドクラフトのプロダクトに深い愛情を注ぐ日本人気質を知るデビット氏にとって、日本というマーケットは以前から視野に入っていた。ただ、誇り高き職人気質ゆえ、それにふさわしいパートナーを模索していたのである。若干35歳にして大手総合商社からヘッドハンティングされてきた前田氏も、従来の技術をさらに進化させた「新生マルマン」を推し進めるにあたって、突破口を探し求めていた。そんなとき、ふたたびは出会い、そして互いの職人魂が共鳴した。出会うべくしての出会いだったのである。

ウィットラム・ゴルフという頼もしいパートナーを得たマルマン。2006年春から未来を見据えた本格的な展開が始まる。これからの動きにゴルフ界の注目が集まりそうだ。